

令和2年度 きらめきプロジェクト活動報告

オンラインにて開催されたもの

4月

*ジェンダー学講義(医学部)
(講師:きらめきプロジェクト
プログラム責任者 加藤 聖子先生
顧問 樺木 晶子先生)



10月

*月例スタッフミーティング
きらめきプロジェクトのOGでもある臨床・腫瘍外科 永吉 絹子先生に、「タイパシティ時代の女性医師の育成と支援～九州大学病院のキャリア支援策と当科における女性外科医師支援の現状と取り組み～」を発表していただきました。

WEBミーティング風景



5月

*きらめき通信Vol.56』発行
*性差医学入門講義(医学部)
(講師:国立病院機構九州がんセンター
乳腺科部長 徳永 スリ子 先生
医療法人たかやま内科医院
院長 雨宮 直子 先生)



11月

*きらめき通信Vol.59』発行
*内科グランドラウンド撮影
*第19回福岡県男女共同参画表彰式



6月

*月例スタッフミーティング

12月

*月例スタッフミーティング
*グランドラウンド撮影
*漢方セミナー



グランドラウンド撮影風景

7月

*きらめき通信Vol.57』発行
*令和2年度きらめきプロジェクト
非常勤医師・非常勤歯科医師採用面接

1月

*きらめき通信Vol.60』発行
*令和3年度きらめきプロジェクト
非常勤医師・非常勤歯科医師採用面接
*ジェンダー学講義(歯学部)
(講師:きらめきプロジェクト副プログラム責任者
清水 真弓先生)



学生が考えたライフプラン

8月

*月例スタッフミーティング
*グランドラウンド撮影

2月

*月例スタッフミーティング
*グランドラウンド撮影
*医療職者の働き方と健康・安全に関する調査
～10年の変遷を経て～集計データ化



9月

*きらめき通信Vol.58』発行
*厚生労働省令和2年度女性医療職等の働き方支援事業採択

3月

*きらめき通信Vol.61』発行
*きらめきプロジェクト交流会
「世界の医師の働き方について書いてみよう!!(第1回)」
講師:順天堂大学医学部附属浦安病院放射線科
准教授 齋藤アネ優子先生
*第11回スタッフ発表会開催
1年間の活動報告・紹介を行う事により、きらめきプロジェクトの活動意義を自他ともに確認・周知、これからのプロジェクトの在り方を考えるよい機会となっています。



キャリアパスに関する講義を行いました(歯学部)



歯学部2年生を対象に、きらめきプロジェクトの副プログラム責任者であり、歯科部門統括責任者である清水真弓先生が歯科医師としてのキャリア・パスと男女共同参画に関する講義をグループディスカッション方式で行いました。今回は、新型コロナウイルス感染症予防および感染拡大防止対策により、対面式ではなく遠隔講義となりました。

学生感想(抜粋)

*自分は結構家事は女がやるものという意識でしたが、班の男性達は女と男半々くらい、と考えているのをきいて、驚きました。将来を考える良い時間になりました。

*自分は出産後、非常勤で近くの診療所で働くことを想定していたが、専門医や博士号を取りたい人はきらめきプロジェクトを利用する手があると思った。男性と女性の発表を比べると、女性の方が比較的早めに子供を授かることを考えていた。やはり産む立場から見ると、仕事に復帰することを考えて、出産も早めがいいと考える体と感じた。班員の男性の意見や他の班の発表を聞いていると、育児に協力してくれようとしてくれる男性が多いし、また、その時に時間のある人がするといった意見も多く、育児や家事は2人でするものだという認識が高まってきているのかなと感じた。

*他の人の意見を聞き、多種多様なライフプランがあった。自分の場合、自分がメインで働きパートナーは子育て家事メインという考え方だったが、他の人の意見にはパートナーと上手く子育て家事仕事をバランスよく分担しているものが多かった。パートナーがしっかりと仕事に力を入れたい人であった場合は、家事や子育ての分担をより綿密に考えていかなければならず、大変だと感じた。

日時 令和3年1月25日 3・4限目
対象 歯学部2年生49名
講師 きらめきプロジェクト
プログラム副責任者:清水真弓



日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します。

2020年度秋からきらめきプロジェクトに所属させて頂いております、卒後5年目の内科医です。私には医師の妻と1歳の娘がおり、現在は妻がフルタイムで働きながら私と家事・育児を分担しています。

娘は2019年に生まれましたが、その際私は市中病院で内科医として多忙な日々を送っていました。産前・産後は妻の実家に支えてもらい、その後も妻は産休・育休のため休職し家庭を支えてくれていました。私はそのことを有難いことだと感じながら、その一方で妻への申し訳なさも感じていました。

妻への罪滅ぼしという訳ではありませんが、2020年度からは研究生として九州大学病院で週1回の外来勤務を行いながら基本的には子育てと家事に専念出来ることとなりました。年度初めは娘も保育園になれるのに時間を要しました。1日1時間の慣らし保育から始まり、その後も保育園に預けると謎の発熱を起こす時期もありました。それでも娘と共に過ごす日々は幸せで、産休・育休明けのブランクがある妻がフルタイムで働くことを支えられている事も嬉しいものでした。娘も徐々に保育園での環境に慣れてきた頃、医局から「きらめきプロジェクト」への募集を提案され、秋からの所属となった次第です。

私も妻もまだ医師として若輩者です。臨床経験も浅く、今後の各種専門医の取得など医師としての研鑽に必要なことは枚挙に暇がありません。きらめきプロジェクトには似た境遇のなか家庭と仕事の両立という困難に挑み続け、医師として素晴らしいキャリアをお持ちの先生方がいらっしゃいます。私もいずれは目標とした先輩方に追いつけるよう努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



卒後11年目の歯科医師です。家族構成は、夫（同じく卒後11年目の放射線科医師）、長女（5歳、幼稚園年中）、長男（3歳、未就学児）、次男（1歳、未就学児）の5人家族です。きらめきには、3人目の妊娠時の約8か月間と、昨年の2020年4月から所属させて頂き、来年度には3年目を迎えます。

＜これまでの経緯＞

私は大学卒業後、九大病院での研修医を経て、現在所属させて頂いている顎口腔外科の後期研修医をしてから大学院に入学しました。大学院は、一度基礎研究を試みたかったという思いもあり、臨床から離れて口腔生理学にて約4年間研究メインで勉強させて頂き、学位を取得しました。

＜きらめきに応募するまで＞

院卒後、子供に恵まれなかった私は妊活をするため、そのまま研究室のテクニカルスタッフとして雇っていただき、無事子供を授かり一度家庭に入ることにしました。このまま家庭に入るのか悩んだ末、結局自分は研究者には全く向いていないこともあり、臨床に戻ろうと決意しました。この時すでに臨床から離れて7年余り…不安しかなかったです。

そこで思いついたのがきらめきでの職場復帰でした。きらめきは週に1日からでも勤務できることを知り、一度医局は退局した身でしたが、中村教授の御厚意に預かり、臨床に復帰することができました。

最初の1年は、医局の先輩方や後輩からも助けをもらいながら、少しずつ手術などもできるようになりました。しかし、家事、子供の幼稚園の弁当や送迎、習い事の付き添いや休日の遊び相手などもあり、仕事に集中できるようになるのはまだまだ先な感じです。

＜今後について＞

3人のほぼ年子の子供を育てながら職場復帰できたのは、実母の助けもあってですが、何より医局で諸先生方に教えていただきながら臨床ができたからだと思います。

私はかなり回り道をして臨床に戻ってきた身ですが、貪欲にやりたいことは挑戦し、今後も将来を模索しながら働いていきたいと思っています。

